岐阜県職業能力開発施設運営改革検討会
第１回木工芸術スクール部会　議事要旨

１　開催日時及び場所
　令和元年７月３日（水）１３時３０分～１５時００分
　木工芸術スクール　会議室

２　出席者
　野尻修二座長、井端清秀委員、藤原広行委員、浦西正幸委員、片岡紀子委員、岩田昌弘委員、滝村昌也委員、倉畑政之委員、大家 実委員、

３　事務局
　商工労働部次長、労働雇用課課長補佐兼労働企画係長、木工芸術スクール校長、木工芸術スクール訓練課長、木工芸術スクール管理調整係長

４　会議の概要
・あいさつ
・施設内見学
・会長選出
・資料説明
・意見交換

５　主な意見
〇入校生の確保に向けたターゲットについて
・木工技術者の即戦力育成を目指しているのであれば、例え県内の生徒であっても目的意識の無い者は入学させてはいけない。一年間やり遂げて、手に職をつけるという強い意志を持った者を優先すべき。
・地元の高校生の入校促進を図る前に、出口である企業の求人ニーズもしっかりイメージしておく必要が有る。

〇企業ニーズに基づく人材供給ができる施設への変革と学校のブランド化について
・スクールが考えている企業ニーズと、実際の企業が将来を見据えて考

えているニーズにズレがある。本当に木工のスペシャリストを求めているのか？製造業を取り巻く環境が大きく変化し、機械化や自動化が進んだ先に、どんな人材をメーカーが求めているのか、先ずはヒアリングをして確かめるべき。

・とはいえ、企業のニーズばかりを掘り起こしていくと、自分たちの軸を見失いがちになるので、実際の企業のニーズを正しく踏まえたうえで整理をして、その中でスクールのブランディングを具体化していく作業が必要である。

・企業を取り巻く環境の変化に伴い変質していく企業ニーズに、５年程度のスパンで対応していく必要がある。

・「飛騨の匠や木工の職人を育てる」というブランディングが果たして良いのか？「木に関わる様々な企画やコーディネートが出来て、更に家具づくりもできる」ということをブランドのイメージとする戦略もかなり効果があると考える。

・企業のニーズに合わせて木工の教育を改めていかないとスクールのブランド価値も上がっていかない。

〇魅力の発信について

・地元の飛騨地区の高校生にスクールのことを知ってもらうことが大事。それには、地元の高校から入校した先輩の情報を発信していくのが効果的。

・大学進学とともに飛騨地区から出ていく生徒が飛騨に居るうちに、少しでも当スクールの印象を与えることが重要。各高校で実施している進路ガイダンスに是非参加してＰＲして欲しい。

・せっかく飛騨に勉強に来た生徒が修了後も飛騨に残ってくれるよう、飛騨の自然の中で木工の仕事をする楽しさや、飛騨の魅力といったイメージとかソフトの部分をアピールすることも大事。

・パンフレットのコンセプトとしては、「飛騨の匠・製造業」という従来のイメージが良いのか、それとも、対抗案として、飛騨の楽しさ、自然の楽しさ、人の良さ、食べ物の美味しさといったものも含めた、総合的なイメージ出しがあると人が来やすいのではと思う。

〇カリキュラムの見直しについて

・スペシャリストだけでなくゼネラリストの資質も兼ね備えた人材を育成するのであれば、二年制を検討する必要がある。

・企業としては、どちらかというとスペシャリストが欲しい。スクール

の訓練は一年間しかないので、先ずは手加工がしっかりできる人材を育てて頂ければ、その後の適性は入社後に見極めながら育てていきたい。

・工場としては、手加工の技術を習得したうえで、機械に置き換えていける技術が求められるが、手加工の技術と機械操作技術を一年間で習得するのは不可能だと思う。二年間かけて手加工と機械技術を磨いてから入社してくれれば、試作現場や技術開発の現場で役に立つので有難い。

・飛騨春慶塗の職人を目指す人の受入れ先として、新たなコースを設けて欲しいといった要望が飛騨春慶の組合から出ているので、今後の検討材料として欲しい。